

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っていると便利な図書・資料」などを取り上げます。

データ凡例 1著者 2出版社 3刊行年月 4ISBN 5ページ数 6定価 7その他

上級の総合的なコミュニケーション能力の習得をめざす

『中級から上級への日本語』



データ

1鎌田修、榎本綾子、富山佳子、宮谷敦美、山本真知子 2The Japan Times
(〒108 0023 東京都港区芝浦4 5 4 / TEL .03 3453 2013 FAX .03 3453 8023) 31998年 5月 4 7890
0918 15220ページ 62 940円 7別冊
単語リスト・解説書付

生の素材を使用した教材

この教材は中級の学習者を対象とし、総合的な日本語能力を上級に引き上げることを目標としています。ここでは、中級を「パターン化した日常の言語活動ができる」レベル、上級を「予期していない場面での複雑なコミュニケーションができる」レベルとしています。

この教材の特色は、①プロフィシエンシー（proficiency：外国語運用能力）は、「どのような言語生活が、どのように、どれだけできるかである」という考え方

に基づいて書かれていること、②エッセイ、記事、アンケート調査のデータなどの、生の素材を使用していること、③自己紹介、買い物、部屋探し、就職など、学習者が日本で生活すると出会うと考えられる言語生活から各ユニットのテーマを選んでいること、④読み物を素材にしているが、「読む」作業を、「話し合う」「説明する」「報告する」などの表現をする活動につないで、総合的な運用能力が伸ばせるように図られていることです。生の素材を使っているので、読み物にふりがなはありませんが、別冊に読みがなつきの「単語リスト」があります。

理解から表現へ、3段階の課題

各ユニットには、「読む前に」、「読んでもみよう」、「読んだあとで」という3段階の課題と、「重要表現」、「文法・語彙練習」という練習問題があります。「読む前に」では、ユニットのトピック

クと関連した小さい読み物について話し合う課題などが与えられます。「読んでもみよう」には、中心になるテキストと、内容の理解を確認するための設問、自分の意見をまとめたり述べたりする課題があります。「読んだあとで」では、資料を見て話し合いをしたり、書いてまとめたりすること、調査など教室外でのプロジェクト的な作業をすることなどが求められています。

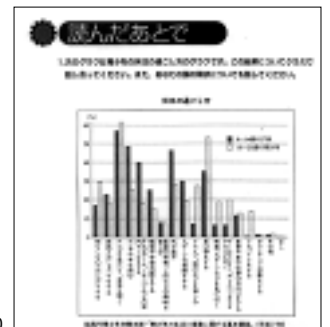
この教材では生の素材を使用しているため、語彙や文型、漢字に制限がありません。また、課題も、決まった解答があるものではありません。このため、学習者のレベル、関心、かけられる時間などに応じた具体的な目標設定と、作業や練習をどこまで行うかについての選択が重要となるでしょう。



P. 156 - 157



P. 154



P. 160

身近なトピックを取りあげたモジュール型初級教材 『モジュールで学ぶよくわかる日本語①②③』



データ

①コーベニ澤子、高屋敷真人、本間直子 **②**アルク (〒168 0064 東京都杉並区永福2 54 12 / TEL 03 3323 1001 FAX 03 3327 5211) **③**1998年4月15日 **④**4 87234 781 1 **⑤**127ページ **⑥**1,575円 **⑦**別冊解説書付、1、2巻は既刊。別売カセットテープ1,365円 **⑧**1巻 **⑨**1993年7月1日 **⑩**4 87234 230 **⑪**115ページ **⑫**1,325円 **⑬**別冊解説書付、別売カセットテープ1,155円 **⑭**2巻 **⑮**1993年12月20日 **⑯**4 87234 288 **⑰**120ページ **⑱**1,325円 **⑲**別冊解説書付、別売カセットテープ1,155円 (1、2巻とも **⑳** ⑲は3巻と同じ)

若い人向けの楽しい教材

この教材は、日本語を50～60時間程度学習した中学生や高校生が、楽しみながら日本語を学んでいけるように作られたものです。もともとはオーストラリアの学生用に開発されたものですが、世界各国の若い学習者の人にとっても役に立つ教材です。

組み合わせ自由なモジュール型教材

この教材は、3冊で15のトピック(話題)中心のモジュールから成っています。モジュールというのは、それぞれが独立した単位で、モジュール型教材とは、一定の順序に沿って学習していく教材とは違って、必要に応じて、どのような順序でも使える教材です。ですから、学習者のレベルやコースの特性に合わせて自由に組み合わせ使用することができます。

親しみやすい身近なトピック

15のトピックの内容は、次のように

なっています。

第1冊「わたしの家族」「スポーツ・レジャー・しゅみ」「買い物」「食べ物・飲み物」「学校生活」

第2冊「わたしの一日」「季節と年中行事」「わたしの国へようこそ」「日本へ行って」「わたしのしょうらいと日本語の勉強」

第3冊「旅行に行こう」「留学生活」「ホームステイの経験」「お世話になりました」「地球をまろう!」

これらのトピックの中から好きなものを選ぶとよいでしょう。

4技能を考えたバランスのよい構成

各モジュールの構成について見てみましょう。各課は、①トピックの場面を導くための絵、②そのトピックに関するコミュニケーション能力を養うためのアクティビティ、③聞き取りタスク、④読解タスク(モジュールによっては含まれていない場合もある)、⑤ダイアログ(モデル会話)⑥文型や文法事項の定着を確認するためのエクササイズ(練習問題)⑦文法事項のまとめの順になっています。

「アクティビティ」では、実際のコミュニ



P.69 トピックの導入

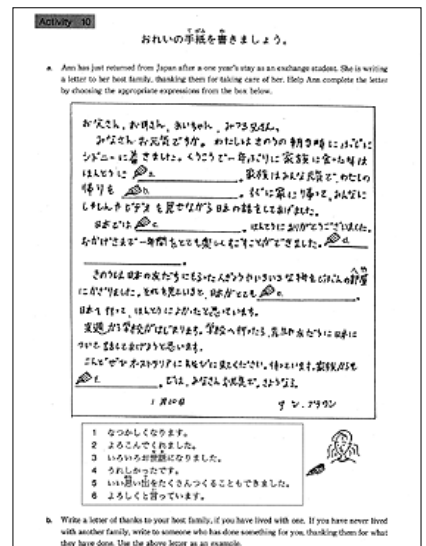
ケーションを考えた練習と、それに必要な文型練習の両方がバランスよく盛り込まれています。「聞き取りタスク」では、自然な会話から必要な情報を得ることができるように工夫されています。

「読解タスク」では、手紙文や日記形式の教材がたくさんありますから、書く活動につなげていくこともできます。

このような練習の中から、みなさんのクラスに応じて、必要なものを組み合わせさせていってください。



P.73 アクティビティ(話す)



P.81 アクティビティ(書く)

*すでに出版されている「モジュールで学ぶよくわかる日本語①②」に続いて、このたび③が発行されました。

p.20～23は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

向井園子、藤長かある、木谷直之、磯村一弘、高偉建、木山登茂子

むかいそのこ ふじなが きたになおゆき いそむらかずひろ たかうけん きやまともこ

